

2023年10月5日

国立研究開発法人 産業技術総合研究所／長岡市／国立大学法人 長岡技術科学大学

長岡からバイオで新産業！産総研×長岡市×技科大で企業支援 「長岡・産総研 生物資源循環 BIL」が11月7日始動

国立研究開発法人 産業技術総合研究所（産総研）、長岡市及び国立大学法人 長岡技術科学大学（長岡技科大）は、「有機廃棄物を含む生物資源の資源循環」をテーマとした研究開発や、長岡市とその周辺地域の食品・バイオ関連等の企業支援を3機関が連携して行う「長岡・産総研 生物資源循環 ブリッジ・イノベーション・ラボラトリー（NAGAOKA・AIST-BIL）」に関する覚書を本日（10月5日）締結し、その連携・広報活動の拠点を11月7日、ミライエ長岡5階に開設します。

これを機に、さらなるバイオエコノミーの推進、人材育成や産業振興に取り組んでいきます。



米百俵プレイス ミライエ長岡

1 自治体が参画する全国初の産総研 BIL

ブリッジ・イノベーション・ラボラトリー（BIL）は、産総研が企業ニーズを核とした研究開発を地域大学や自治体等と連携して実施するもので、その成果の橋渡しを通じた地域企業の事業化支援による新産業創出、地域経済活性化および地域社会課題解決を目指す連携体制です。地域の中小企業やベンチャー企業などへの支援強化の核と位置付けています。

産総研のBIL開設は全国で2か所目で、連携の枠組みに自治体が参画するのはNAGAOKA・AIST-BILが初めてです。



2 NAGAOKA・AIST-BIL の体制

(1) 活動拠点

- 米百俵プレイス ミライエ長岡 5階 ギャラリーラボ、イノベーションサロン（連携・広報活動拠点）
- 産総研つくばセンター・北海道センター（研究拠点）
- 長岡技科大（研究拠点）

(2) 活動内容

共同研究、研究成果に関する広報活動、長岡市および長岡市周辺地域の地域課題やニーズを収集するための連携活動、人材育成など

(3) プロジェクトマネージャー（運営総括）

産業技術総合研究所生物プロセス研究部門生物システム研究グループ主任研究員・宮房孝光

(4) その他

- 月1回程度、3者による連携会議を開催
- 産総研の職員が月1回程度、長岡で活動

3 BIL を長岡に開設する理由

- 長岡技科大と産総研は、共同研究や実務訓練などで強い連携関係がある
- 長岡市内の企業が地域の大学などとともに、長岡バイオエコノミーコンソーシアムを設立し、コメや未利用資源を活用したバイオ産業の創出を通じた地域活性化に向けた取組みを推進。田村領域長が研究アドバイザーを務める（2023年10月5日現在、44社・機関が加入）
- 内閣府の「地域バイオコミュニティ」に全国4地区の一つとして認定（2021年6月。現在6地区）
- 3者共同で、国の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の微生物の力による廃水処理の実証実験。生ごみバイオガス発電センターで「膜分離リアクター」を設置し、廃水処理プロセスの高度化に資する整備、技術開発、データ収集・解析を実施（2020・21年）
- 産総研もシンポジウムを共催するなど連携・交流を推進
- ミライエ長岡が市民を巻き込んだ産学連携の拠点として機能、JR長岡駅から徒歩5分の好アクセスであること
- 長岡市及び周辺地域にはコメを中心とする食品関係のバイオ産業が集積
 - ・16の日本酒蔵（全国2位）
 - ・国内有数の米菓製造メーカーなど多くの食品加工企業、その他関連分野の企業も多数立地
- 産総研として、研究開発のさらなる強化と事業化の支援を行うことで、これらの取組みをさらに加速できると判断



長岡バイオエコノミー・シンポジウム
2023（2023.2.22）

【産業技術総合研究所（産総研/AIST）】

日本最大級の公的研究機関。日本の産業や社会に役立つ技術の創出とその実用化や、革新的な技術シーズを事業化に繋げるための「橋渡し」「社会実装」機能に注力。そのための体制として産総研のコア技術を束ね、その総合力を発揮する「5領域2総合センター」があり、全国12か所の研究拠点で約2,300人の研究者がイノベーションを巡る環境の変化やそれらを踏まえて策定された国家戦略等に基づき、ナショナルイノベーションシステムの中核的、先駆的な立場で研究開発を行っている。また世界各国の主要研究機関と包括研究協力覚書(MOU)を締結するなど、積極的にグローバルネットワークも構築している。

今年4月には、社会課題解決と産業競争力強化を目指し、研究成果の社会実装に向けた体制と活動を強化するため、産総研100%出資により、株式会社AIST Solutions（アイストソリューションズ）を設立した。

4 「NAGAOKA・AIST-BIL」ロゴマーク

「再生可能原料」として今後の利活用が期待されている4種類の炭素源、

- ・ブルー炭素（海藻、海草などの海洋炭素）
- ・イエロー炭素（家畜ふん尿、汚泥、食品廃棄物、紙などの有機系廃棄物）
- ・グリーン炭素（木質バイオマス、農業残渣などの木質・草本炭素）
- ・グレー炭素（廃プラスチック類などの廃棄物）

を模した4色（青、黄、緑、灰）の線が円を描き、「資源循環」していく様



ロゴマーク

子を表しています。

また NAGAOKA・AIST-BIL では、長岡市役所や長岡技科大をはじめとした長岡市および長岡市周辺地域の企業・団体と、産総研とが協力して資源循環をすすめていくという想いを込めて、長岡・産総研のそれぞれの頭文字である「n」と「a」を円の中心に配置しています。なお、文字の色は、産総研のコーポレートカラーである赤色で配色しています。

5 キックオフイベント

○イベント名：

「長岡・産総研 生物資源循環 ブリッジ・イノベーション・ラボラトリ キックオフイベント」

○主 催：産総研、長岡市、長岡技科大（三者共催）

○日 時：11月7日（火）午後1時半～3時（予定）

○会 場：米百俵プレイス ミライエ長岡 5階 スタジオA・B

○内 容：各機関代表者からの挨拶、来賓祝辞、BILの取り組みに関して各機関代表者からの説明

※詳細は、後日プレスリリースします

■本件に関する問い合わせ先

○国立研究開発法人 産業技術総合研究所

ブランディング・広報部 報道室 E-mail：hodo-ml@aist.go.jp

○長岡市

商工部産業イノベーション課 宮島 TEL：0258-39-2402

E-mail：sangyou-seisaku@city.nagaoka.lg.jp

○国立大学法人 長岡技術科学大学

大学戦略課企画・広報室 TEL：0258-47-9209 E-mail：skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp